



冬号のテーマ

- ①献血について ②避妊・去勢について

献血ボランティアの募集について

献血とは出血や病気で重度の貧血が進行していて輸血が必要な場合に、健康なわんちゃんやねこちゃんから輸血することです。現在日本では動物の血液バンクはなく、動物病院で輸血犬や猫を飼育したり、通院されている飼い主さんなどに呼びかけるといった方法で輸血を行っているのが現状です。

当院では以前より献血ボランティアさんを募集していますが、まだまだ十分な血液が確保できていない状況です。特に大型犬で輸血が必要となった場合には多くの血液が必要となります。近年大型犬の数が減少傾向なため、なかなかドナーが見つかりにくいです。そのため健康な大型犬さんは特にご協力をお願い致します。

募集要項

	犬	猫
年齢	1~8歳齢	
性別	去勢雄/未経産の避妊雌	
体重	25kg異常が理想	5kg以上が理想
既往歴	輸血又は血液製剤の投与経験なし	
予防	混合ワクチン及び狂犬病ワクチンを毎年接種している	混合ワクチンを毎年接種している
	フィラリア予防を毎年している	猫エイズ及び猫白血病にかかっていないこと

どうやって献血をするの？

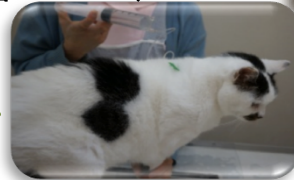
- ①ドナーの健康状態を身体検査と血液検査にてお調べします。
 - ②ドナーと患者の血液が適合するかを調べます。
 - ③1,2がクリアであれば採血部位を毛刈りし、頸部又は前腕部より血液を採血します。
- ★一回の採血量は体格に応じて違います。(犬:200~400ml、猫:30~60ml)

皮膚のたるんでいる所に
補液をして水分補給するよ★

ココです



- ★採血後は採血量と同量の輸液剤を皮下補液致します。
- ★採血には多少のお時間が掛かるのでじっとしてられない場合はわんちゃんねこちゃんの安全確保のため鎮静処置又は全身麻酔を行う場合があります。
- ★採血部位に内出血が見られることもあります。10日程で自然に消えます。



献血ボランティアさんへの特典

- ★翌年の混合ワクチンを50%引きに致します。(混合ワクチンのみ)
- ★ご本人様がもしも輸血治療が必要になった際20%引きで行います。
- ★献血時に行う血液検査や身体検査は無料です。



登録方法

- ①ボランティア希望の旨をスタッフにお伝え下さい。
- ②募集要項を満たしている子であれば登録させて頂きます。
- ③登録完了後は輸血が必要になった時にご連絡させて頂きます。



実際に輸血を行い助かったケースはたくさんあります。
血液バンクのない動物医療ではお互いに助け合わなければいけません。
1つでも多くの命を助けるためにも、皆様の大切なわんちゃんねこちゃんご協力をお願い致します。

避妊・去勢はなぜするの..?

避妊・去勢をすることで**多くの疾患を予防、治療**する事が出来ます。さらに**問題行動**に対しても効果があります！！

去勢のメリット

良性前立腺過形成 (Benign prostatic hyperplasia; BPH)

犬で最も多い前立腺疾患です。前立腺は男性ホルモンにコントロールされており、年齢を重ねるにつれてホルモンの影響で前立腺が大きくなり、便が出にくくなります。BPHは6歳以上の未去勢雄での発症が多くなります。大きくなると手術をしないと完全には治りません。

精巣腫瘍

精巣腫瘍は、老齢犬では皮膚の腫瘍に次いで多い腫瘍です。精巣腫瘍は2~17歳で発症し、平均9歳以上の老犬で認められることが多いです。老犬では陰嚢内であっても腫瘍が発生するが、通常は潜在精巣に合併して生じることが多くあります。犬および猫の精巣腫瘍は、セルトリ細胞腫、セミノーマ(精上皮腫)、ライディッヒ細胞腫(間質細胞腫)が多いです。

問題行動

去勢することで、雄犬の放浪行動の約90%、尿マーキングの約50%、マウンティングの約70%を減少させることができます。また雄犬同士の攻撃行動の約60%は、去勢手術により制御することが可能といわれています。猫では尿マーキング、マスターベーション、猫同士の攻撃に効果的であると報告されています。

その他にも去勢する事により、会陰ヘルニアや肛門部の腫瘍の発症率も低下します。**去勢手術は、これらの疾患の予防及び治療として重要です。**

避妊のメリット

乳腺腫瘍

初めての発情前に避妊手術をした雌犬は**ほぼ100%**乳腺腫瘍になりません。1回目の発情後避妊した雌犬の乳腺腫瘍の発症率は約7%で、2回目になると25%に上昇します。乳腺腫瘍はエストロゲン(卵巣から分泌される女性ホルモン)によって刺激されて出来ることが多いため、避妊手術が有効です。

子宮蓄膿症

子宮内に膿が満たされた状態で、通常は**緊急手術になる**ことが多い疾患です。主な症状としては元気、食欲の低下、多飲、多尿、腹囲膨満、陰部からの排膿等が挙げられます。9歳以上の**未避妊の犬では66%以上**で発症するという報告もあり、**非常に発生率の高い疾患**である。犬では発情後平均8週以内に発生し、猫では発情後平均4週以内に発生するといわれています。

問題行動

犬で尿マーキング、発情期の放浪、一部の不安行動、猫では発情期の尿マーキング(約95%で効果あり)、発情期の鳴き声、一部の不安行動、猫同士の攻撃行動に効果があります。

その他にも卵巣疾患(卵胞嚢腫や黄体嚢腫など)や卵巣腫瘍(顆粒膜細胞腫など)等の疾患があります。**避妊手術は、これらの疾患の予防及び治療として重要です。**

男の子、女の子共に**生後6~8ヶ月**が避妊・去勢手術に適しています。
詳細は当院スタッフまでご相談下さい☆

2014年も元気に
過ごしましょう☆

お知らせ

- ◎12月31日午後~1月5日まで病院をお休みさせていただきます。(急患は当直獣医師が対応致します)
- ◎12月 日からフードのメーカーが休みのため注文はお早めをお願い致します。
- ◎年末年始はホテルが大変混み合いますのでご予約はお早めをお願い致します。尚、12月20日~1月10日はホテル料金がハイシーズン料金となります。(1日につき¥630加算されます)

